

資料1

ダイヤ改正に伴う運行状況及び羽村西コースの遅延について

【1 ダイヤ改正に伴う利用実績】

○羽村東コース

・ダイヤ改正を行っていないことから、自然増であると考えられる。

○羽村西コース

・4月から6月までは前年度より乗車数は増加したが、7月は381人の減、8月は139人の減、9月は442人の減であった。

○小作コース

・ダイヤ改正後も前年度に比べ増加している。

○羽村中央コース

・ダイヤ改正後も前年度に比べ増加している。

○全体

・全体的には4月からの利用者は年々増加傾向である。

・本年7月は967人の増、8月は1,124人の増、9月は650人の増であり、累計では6,631人の増である。

・利用者増により、回数券の売り上げが9月までの累計を比較すると、昨年度より約25万円の増となっている。

【2 羽村西コースの遅延と乗車人数の減少について】

○7月1日のダイヤ改正により、羽村駅東口発の第1便が8:20から8:06に変更となった。

○羽村駅東口の第1便の発車時刻が早くなったことにより、川崎会館交差点付近及び旧奥多摩街道の羽村大橋交差点付近について、はむらん運行時間と、一般車両通勤時間帯の渋滞が重なり、運行遅延が発生している。また、『川崎会館』～『郷土博物館』～『羽村駅西口』停留所間では、最大約15分以上の遅延が発生することがある。

○土・日・祝日は、渋滞の発生はおこらないことから、遅延なく運行している。

○平日の途中停留所は遅延運行となっているが、『羽村駅西口』～『羽村駅東口』の運行間で時間調整できるので、第1便の運行終了時点では、概ね5分以内の遅れで終点の羽村駅東口に到着している。しかし、平日が必ずしも遅延しているとは限らない。

○羽村駅東口発の第2便についても、第1便の遅延が影響を及ぼし、遅延することもある。

7月1日から10月23日までの113日間(測定不能日2日)

0分以上6分未満	遅延日数	89日 (79%)
6分以上10分未満	遅延日数	17日 (15%)
10分以上	遅延日数	7日 (6%)

○羽村西コース 便別1日平均乗車人数比較

改正前

(単位:人)

	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便	9便	10便	平均
平成25年発時刻	8:20	9:32	10:44	11:56	13:08	14:20	15:32	16:44	17:56	19:05	
7月の1日平均	16.7	21.5	17.9	15.1	11.2	14.0	16.2	10.4	8.4	6.4	13.8
8月の1日平均	15.8	22.1	21.5	16.8	12.1	13.5	17.7	12.3	9.8	5.7	14.7
9月の1日平均	15.6	22.0	19.4	16.9	13.1	13.7	16.2	10.1	9.5	5.3	14.2
平均人員	16.0	21.9	19.6	16.3	12.1	13.7	16.7	10.9	9.2	5.8	14.2

改正後

	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便	9便	10便	平均
平成25年発時刻	8:06	9:11	10:16	11:21	12:28	13:44	15:03	16:10	17:32	18:40	
7月の1日平均	12.0	16.4	17.9	13.8	13.4	12.5	13.2	10.7	8.7	6.9	12.6
8月の1日平均	13.5	17.1	18.4	16.1	16.0	13.8	16.5	11.7	11.6	8.2	14.3
9月の1日平均	11.6	13.8	16.7	15.1	15.8	13.9	13.2	10.4	10.3	6.1	12.7
平均人員	12.4	15.8	17.7	15.0	15.1	13.4	14.3	10.9	10.2	7.1	13.2

対前年平均人員差	-3.6	-6.1	-1.9	-1.3	3.0	-0.3	-2.4	0.0	1.0	1.3	-1.0
----------	------	------	------	------	-----	------	------	-----	-----	-----	------

○平成24年OD調査と現ダイヤの状況比較

・第1便

清流付近から羽村駅西口へ行く利用者が減った。

・第2便

旧ダイヤでは、清流地区から緑ヶ丘西へ行く利用者など、鉄道乗継以外の固定客がいた可能性が高い。

【3 今後の対応策(案)】

西東京バスと協議した結果、前回提示した第1便始発時間を8:06から8:00に改正する案もあるが、安易に時刻表を改正することは利用者に混乱を招くおそれがあるので、現状を維持したまま運行したい。

また、西東京バスの調査では、羽村西コース第2便の乗客数が減っていることが判明したので、第2便の中央特快9:46への乗り継ぎの利便性等を含め、広報はむらやリーフレットにより情報提供を行い利用者増を図り、1便、2便の乗車状況調査及び今後の利用者の推移を見極め、全コースの乗車人数の増加や減少の内容について把握していきたい。